



一貫コース通信

「青春の夢に忠実であれ」考

今から4年ほど前、三重県の神島というところを訪れたことがある。ここは、周囲およそ4kmほどであるが、北部が黒色片岩、南部が黒色片岩の上部に石灰岩が付加した地質として形成されており、実際に見てみると岩石や地層からそれらが確認できる。2時間もあればじっくり1周できるほどの小さな島である。鳥羽の港からフェリーに乗り40分ほどで島に到着すると、小さな港の眼前には漁師町らしい細い路地が入り組んだ独特の家並みが広がっている。この島は三島由紀夫の『潮騒』の舞台になった場所とも記憶している。海沿いに迫立つ黒色片岩を見ながら、しばらく歩くと石灰岩が所々に突き出すカルスト地形の景観が広がり始める。特に断崖に広がる石灰岩の連なりは絶景であった。人類が文明を創造するずっと前に形成された壮大な景観に思いを馳せながら、そこに人々が生活していることを体感できたことは、個人的には感動的であった。またその後、神島からフェリーで20分ほどのところにある菅島も訪れた。ここには蛇紋岩の採石場があるということで、是非とも見学したいと訪れたのだが、採石場が島の高台にあり、到達するまでは暫く登山をしなければならず、向かっている途中で最終のフェリーに間に合わない時間になってしまい、泣く泣く引き返したわけである。次回への課題が残ってしまった。

これらの島を訪れた目的は上述した通りであるが、この旅においては、他にも様々な興味深い経験もした。鳥羽市に宿を取ったのだが、午後6時にはほとんどの店が閉まり、駅のコンビニも午後9時には閉まった。朝が早い漁師町らしい姿であるが、カルチャーショックを受けたことも事実である。名産の真珠貝の貝柱や、「たれ」と呼ばれる干物は絶品であった。その後、志摩半島からの多島海を見て、帰りには伊勢神宮に参詣して旅を締めくくった。

さて、このような旅をした背景には、子どもの頃に地質学者に憧れていた時期があることと関係している。人生の中で様々な転機があり、高校時代は文系を選択し、大学では西洋史学を専攻したため、地質学とは無縁であったが、ある時にドイツの詩人シラーの「青春の夢に忠実であれ」という言葉に出会ったことで、少し自身の人生について考えてみたことが契機となった。大それた話ではないが、かつて地質学に興味があったため、趣味程度に勉強してみようかという話である。

生徒の皆さんは、若い今の時期だからこそ、自身の将来像について色々と思案を深めて欲しいと思う。そして後悔がないような進路選択が叶えばと思う。若さに裏付けられた無限の可能性を信じ、「青春の夢」に向かって邁進して欲しい。もちろん人生は複雑なわけだから、今考えていることが必ず将来に実現できるとは限らない。今考えつかないような将来が待っているかもしれない。重要なことは、今、「青春の夢」を抱き、それを大切にしていくことであると思う。そうすれば、私のように学生の頃に全く想像もしていなかった職業に就いても、趣味程度に「青春の夢」を楽しめるかもしれない。

